

■ 書 評



**前頭葉・実行機能プログラム
(FEP) 認知機能改善のための
トレーニング実践マニ
ュアル・臨床家ガイド付き**

Ann Delahunty, Rodney Morice
著

松井三枝, 柴田多美子, 少作
隆子 訳

新興医学出版社

2015年3月

本体価格 20,000円+税

『人間は考える葦(あし)である。』とは哲学者パスカルによる言葉である。その「考える」中枢である脳の働きについて「社会脳」や「自我脳」という概念から、行動を担う中枢としての「行動脳」という側面が着目されつつあるが、その「行動」を制御する「実行機能」において大きな役割を担うのが前頭葉である。

ここで取り上げる前頭葉・実行機能プログラム(Frontal/Executive Program:FEP)は、主として統合失調症を対象とする認知機能改善療法(CRT)の1つで、先進的な多くの試みがなされているオーストラリアで開発されたものである。

日本語序文に本書の成り立ちについて記されているが、訳者らがロンドン精神医学研究所心理学・リハビリテーション教授ティル・ワイクス先生の著書『統合失調症の認知機能改善療法(Cognitive Remediation Therapy for Schizophrenia)』に出会い、CRTの臨床応用を模索する中でワイクス先生御自身よりオーストラリアのアン・デラハンティ先生たちが開発した『前頭葉・実行機能プログラム』を推奨されたとのことである。そのプログラムはワイクス先生グループに参加しているメンバーやそのワークショップの参加者に提供されたものであったが、それらが訳者らによって翻訳され、わが国に適用するための様々な工夫を加え、2009年から出版まで6年程の月日を経て、完成に漕ぎ着けたとのことである。

本書は前頭葉機能・認知機能改善のためのトレーニングを集めたマニュアルであるが、前頭葉・実行機能プログラム(FEP)用紙セット、トークンと合わせての出版となった。プログラムは治療者と患者さんが一対一となって行われ、1セッションあたり約1時間か

けて合計44セッション分用意されている。各セッションとも紙と鉛筆を使った課題が中心であるが、手の運動や、セットに含まれるトークン(積み木)を用いた課題がある。トークンは色・形・大きき別に分けられており、セッションの進行によって課題の難易度が高くなるものの、患者さんの能力や達成度に合わせた調整が可能となっている。本書のサイト(<http://shinkoh-igaku.jp/kigu/fep.html>)ではプログラムの模擬トレーニングに関する複数の動画が紹介されており、この動画を参考にしつつ、マニュアルに沿ったトレーニングを行えるように工夫されている。これらは実際にトレーニングに取り組む場合も大きな助けになると感じた。

統合失調症の回復までを俯瞰するものとして、原著序文に「統合された階層的リハビリテーション計画」が紹介されており、1. 認知プログラム、2. 心理社会プログラム、3. 心理教育プログラム、4. 日常生活モジュール、5. 職業前プログラム、6. 職業プログラムの6段階のプログラムから構成されている。本書の前頭葉・実行機能プログラムは、1. 認知プログラム(b)の前頭葉・実行機能プログラム(認知的柔軟性モジュール、ワーキングメモリモジュール、計画モジュール)に位置づけられ、これらのモジュール内容がそのまま本書の構成となっている。また、拒薬や断薬などがあり、治療への理解に乏しいなど対象者の状態によって本プログラムの前段階である1. 認知プログラム(a)の「注意モジュール」を行うことなど、広く患者さんの状況にあわせた対応が推奨されている。

精神疾患における非薬物療法への期待は大きく、認知行動療法など心理療法によっても前頭葉機能の改善がもたらされることは知られている。これらによる治療効果を間接的効果とすると、直接的に前頭葉機能の改善を図る目的を持つ非薬物療法としての本トレーニングは重要であり、時代の要請ともいえる。

脳トレーニングが社会的なブームとなっており、脳活動の活性化は健康な生活を送るために必要であることは広く認知されている。精神疾患のように前頭葉の活動が低下し、実行機能に障害が生じる場合には本プログラムのようなきめ細かいアプローチが1つの手がかりになると思われる。本書が活用され、知見が積み上げられていくことで非薬物療法の選択肢が広がっていくことを期待したい。

(谷井久志)